

# 設 立 趣 意 書

昭和62年4月29日

私は昭和44年に来日し、栃木県益子町にアトリエを建設しました。昭和50年には日本に帰化しました。

来日に際し、日本に住む今世紀の文化人として社会の役に立つ為には、どのような生き方をすべきか深く考えました。

一つは、日本内外の文化人の養成所として長く使えるような仕事場、研究室、宿舎などの建物から庭に至るまで一体となった良い環境を作り上げること、一つは、彫刻の学校を卒業してもアトリエを持たない若い人々に無料で仕事場を提供し、且つ指導すること、一つは私自身が優れた作品を創る事、とりわけ長年の美術史研究に基き、世界の平和を願って制作している「哲学の庭」の群像を完成し、実現化することなどでした。そしてこれらを実行して参りました。

私は今年65歳になり、あとこの十年くらいしか仕事が出来ません。十数年来、妻と共に精神的、経済的全エネルギーを投入して作って来た設備を、我々個人の物と考えたことはありませんので、今後も私共の生きている間は、より完成に近づけ、その後もこの形で多くの人々の役に立てて欲しいと思っています。又私がライフワークとして制作している「哲学の庭」の十数体の彫刻が私共の死後、一つ一つに分散してしまうことにより、後世の人々に意味がわからなくなることを恐れています。

数年前遺言書を作った折に、私共の死後は財団法人にすることを記しましたが、法人を設立することはなかなか面倒な手続きがあり、死後にこれを誰かに託すのは迷惑になると思います。

TAO（タオ）研究所の名前の語源は中国語で、道・基礎・精神を意味します。TAOの名はこの法人の目的と性格を表現しています。即ち、この法人は究極的には、学んだ知識を基礎として、世界の平和と言う目的達成のため、日常生活の各分野で広く人々の幸せのために役に立つ人間を育成します。将来は建設的な思想を身につけ、十分な知識を学んだ最初の教え子が、芸術家にとって最も大切な「歴史上の自分の責任」をよく自覚して、社会の多くの分野で人々の幸せのために役に立ってくれるのを願っております。

そのために、私共の持っているあらゆるエネルギーを投入したいと思います。

設 立 者

和 久 奈 南 都 留  
和 久 奈 ち よ